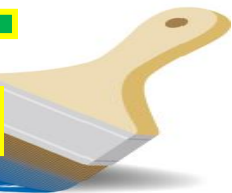


つばきっこ通信



生誕から知る ~アガサ・クリスティー 編

ミステリー作家として不動の地位を築いた人物。作品を読んだことがない人でもその名前を聞いたことがあると思います。

ポアロやミス・マーブルといったミステリーに欠かせないキャラクターを生み出し、数多くの書籍が出版されました。なんと創作された作品は100を超えています。

そんなアガサ・クリスティーという人物についてあなたはどれくらい知っていますか。このコーナーでは、彼女についてご紹介いたします。

本名：アガサ・メアリ・クラリッサ・ミラー

24歳の時、アーチボルド・クリスティーと結婚したことによりアガサ・クリスティー(略称)となる。

誕生：1890年9月15日

死没：1976年1月12日(享年85歳)

出身地：トーキョ(イギリス)

家族構成：父、母、兄、姉

文学賞にもなっている!?

なんとアガサ・クリスティー賞なるものが存在します。早川清文学振興財団と早川書房の共催のもと、英国アガサ・クリスティー社の協力を得て創設された文学賞。

ミステリー小説の新人賞としてアガサ・クリスティーの伝統を現代に受け継ぎ、発展、進化させる。そんな新人作家の発掘と育成を目的としているそうです。そして現在、第12回の募集が開始されています。

きっかけは些細なこと?

17歳の頃に『黄色い部屋の秘密(ガストン・ルルー/著)』に感心し、姉と探偵小説が書けるかどうか論争することに。やがて、それが後の作家になる動機となります。

そして1916年、デビュー作となる『スタイルズ荘の怪事件』をわずか3週間で脱稿するも出版社からはボツの連続。なんと『スタイルズ荘の怪事件』が刊行されたのはそれから約4年後のことでした。

このときアガサ・クリスティーは30歳であり、彼女の偉業がそこから始まることとなったのです。その後、家を購入することになりますが、その家に「スタイルズ荘」と名付けています。

参考資料

○アガサ・クリスティー自伝 上巻,アガサ・クリスティー/著,早川書房,2004年,605p

○アガサ・クリスティー自伝 下巻,アガサ・クリスティー/著,早川書房,2004年,566p

参考 URL

○文学作品の創造に対する顕彰及び助成~アガサ・クリスティー賞~.https://www.hayakawa-foundation.or.jp/business/christie_prize/, (参照 2021-6-4)

わずかではありましたが、いかがでしたでしょうか。人の歴史にも物語あり!

詳しく知りたい方は、左に記載した資料を手にとってみてください。また作品もたくさんあります。これをきっかけに読んでみるのもいいかもしれません。

自伝と作品に関連する本のご紹介

『アガサ・クリスティー自伝(上/下)』

アガサ・クリスティー/著

早川書房 2004年《B930.28/ク》

15年の歳月を掛けて執筆された本書。

アガサ・クリスティーの人生について

興味のある方は必読必至です。

『アガサ・クリスティー百科事典』

数藤康雄/編 早川書房 2004年《B930.28/ク》

本書はその名の通り百科事典の如く。長編や短編といった作品についてはもちろん、作中に登場する人物やアイテム、映像化作品などもこの一冊で知ることができます。

『アガサ・クリスティー完全攻略』

霜月蒼/著 早川書房 2018年《B930.28/ク》

アガサ・クリスティーの全作品をネタバレ無しに網羅しています。作品を読んだ人、読んだことがない人も楽しめる本になっています。また出版された作品を知る索引書としても使えます。

季刊 34号(2021年7月)

指定管理者：株式会社ヴィアックス

発行：所沢図書館 椿峰分館

〒359-1145 埼玉県所沢市山口5267

☎04-2924-8041

「波打ち際の蛍」

島本理生 / 著 角川書店 《B913.6 / シ》

心に深い傷を抱えた麻由は「相談室」で蛍と出会う。二人で出かけた海、あなたが流されないようにと波打ち際に佇む蛍。どうしようもなく彼に惹かれるのに、身体に触れることができない。いっそ離れてしまいたいと思う麻由の苦しさや痛いほど伝わってくる。屈託のない幼なじみや家族のさりげない優しさ、後押しされ、麻由は少しずつ本来の生きる強さを取り戻していく。友達でいたいと願う麻由に蛍の答えは……。清々しいほどのかなしみと光射す予感を感じられるラストは個人的には好き。心象風景の描写が繊細で美しくただ一文で引き込まれてしまう。もどかしくて切ない想いに読むのが辛く読後は暫く動けない。そう分かっているのに読まずにはいられない、癖になる小説。

「春にして君を離れ」

アガサ・クリステイー / 著 早川書房 《B933.7 / ク》

ミステリー作家で著名なアガサ・クリステイーが、メアリ・ウエストマコット名義で出版し、関係者へ四半世紀もの間自分が執筆した本であることを漏らさぬよう箱口合までしていた本作。ある時、主婦のジョーンが娘バーバラのお見舞いを終えた帰路の途中、出会った懐かしい旧友との会話に花を咲かせる。砂漠以外何も無いレストハウスでの生活が彼女に自問自答の機会を与える。大事件が起きることもなく進む物語に序盤は単調に感じるかもしれない。それでも次第にこの小説が何を伝えたいのかが見えてきて先へと読み進んでしまう。そして人間の本質を捉えたラストには共感を覚えてしまう。これは一読の価値間違いなし！

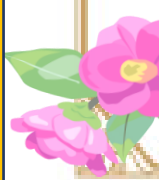
新しい雑誌のご紹介

「フジユール」

雑誌のコンセプト「50代からの旅と暮らし発見マガジン」とある通り、優雅で落ち着きのある旅行雑誌。旅行プランの参考にもなります。

「母の友」

子育てに寄り添った生活文化誌。連載も豊富にあり、読み物としても楽しめます。



大人の朗読会 開催日決定！！

日時：8月14日(土)

16時～(30分ほど)

短編やエッセイなどを中心に職員2名が朗読いたします。ぜひ、ご参加ください。



感染状況を考慮して、予約等での人数制限を設ける場合がございます。また日程の変更もしくは中止となる場合もございますので予めご了承ください。

図書館クイズ

図書館に関連した事柄をクイズにして出題します。これが分かれば図書館を利用する際に役立つはず！

問題： 図書の背表紙には分類番号が振られ、それぞれに意味があります。では、分類番号の先頭にくる番号が意味する分野は何でしょうか？

- 0 総記
- 1 哲学
- 2 社会科学
- 3 自然科学
- 4 技術
- 5 産業
- 6 言語
- 7 文学
- 8
- 9



今回紹介した分類番号は第一区分となる数字についてです。それ以降は第二～四次区分……の数字が振られより細分化されています。

例： 9000 文学(第一次)

910 日本文学(第二次)

913 小説・物語(第三次)

913.6 日本小説(近代)(第四次)

このように図書館では数字を介して、本を分野別に排架しています。分野で分かれているからこそ職員も膨大な図書の中から探し出すことが出来るのです。